

## 原三溪市民研究会第2回シンポジウム

# 「原三溪と矢代幸雄 ～二人は美術を通して 何を実現しようとしたのか～」を開催

11月の活動は、例会に代えて、昨年10月に引き続き、三溪にかかわる2回目のシンポジウムを、横浜美術館、三溪園との共催で開催しました。実業家であるとともに、美術のコレクター・支援者として知られる原三溪は、インドの詩人タゴールが三溪園に逗留した際に通訳をした美術史家・美術評論家の矢代幸雄と、その後、美術を通して深い縁を結びました。矢代は、三溪の死後、膨大な三溪のコレクションの一部をもとに、奈良に大和文華館を開いたり、多くの著作に三溪との交流を描くなど、三溪研究に欠かせない役割を果たしています。

シンポジウムの第一部では、矢代幸雄研究の第一人者である山梨絵美子さん（東京文化財研究所企画情報部部长）の基調講演、第二部では神奈川県立近代美術館に寄託されている「矢代幸雄資料」から原三溪にかかわる資料を取り上げ、山梨さんに加え、清水緑さん（三溪園保勝会学芸員）、当研究会会員で長年矢代幸雄の研究を重ねてきた久保いくこさんを交え、当研究会の藤嶋俊會事務局長をコーディネーターとして、二人のかかわりを掘り下げました。

会場の準備、資料の作成、受付や進行なども会員が分担しておこない、横浜美術館の協力も得ながら、会員が手作りで開いたシンポジウムでしたが、150人あまりの方が参加され、「三溪さんと矢代との交流がよく理解できた」「大和文華館に行ってみたくなった」などの感想をいただきました。私たちの活動と研究の成果の一部を広く市民にお伝えする役割を果たすことができたシンポジウムとなりました。



第1部 山梨絵美子さんの基調講演



第2部 シンポジウム